

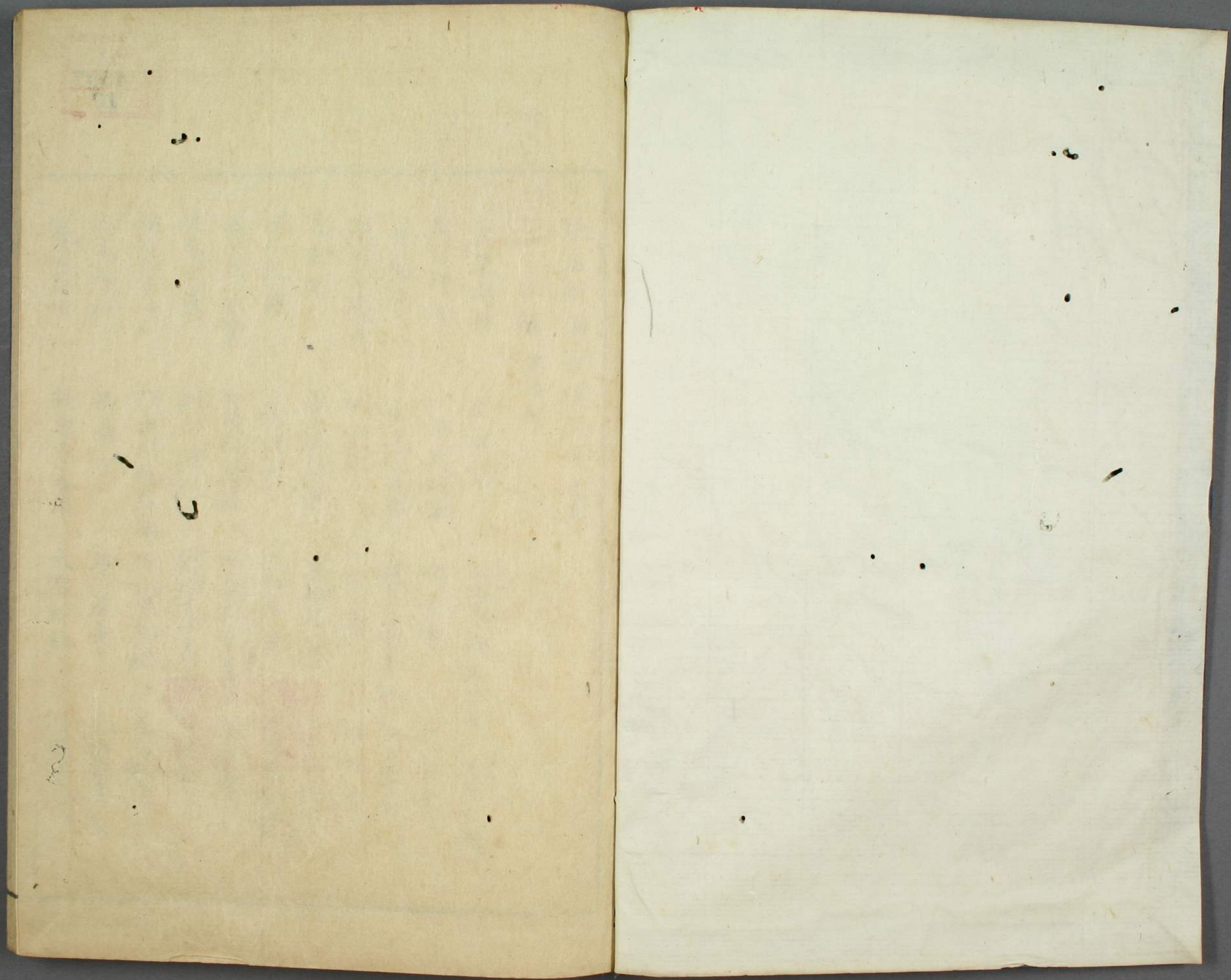


尾張名所圖會 後編

五

ル 4
4597
12





門北生
號 4597
卷 12

尾張名所圖會後編卷之五

目錄 葉栗郡



栗郡解	黒田神社	善龍寺	黒田古戰場	宝行寺	里小牧渡	玉の井古覽	及川古渡	伊富利部神社	大毛神社	意足居士
黒田里	一柳氏城跡	善光の古事	北方里	名産笹籠	養願寺	加茂明神社	割田繪	結城縞織屋の図	極樂寺	極樂寺廢跡
正徹法師黒田里 <small>ト</small> 託居の図	劔光寺	舊善光寺古跡	北方渡	東郷侍從	玉の井里	玉井助重舊宅念敬寺	関田氏古城址	佐手原御厨	榮泉寺	大野神社
	宝光寺	法蓮寺	妙性坊	大日社	玉の井舊跡		三宝寺	大毛郷	光明寺	河原渡

早稲田 大学 図書館
昭和 35. 1 28 購
藏 書

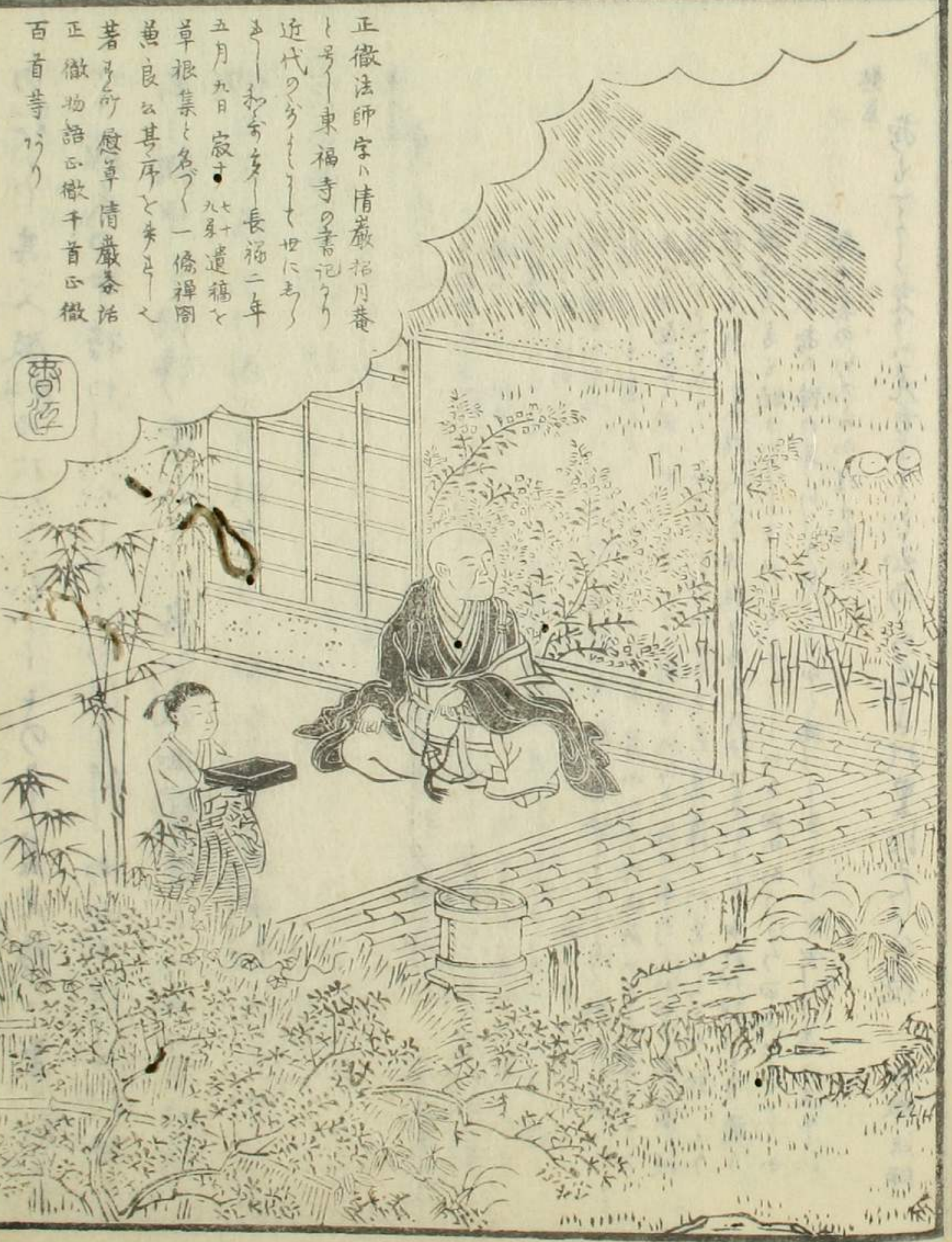
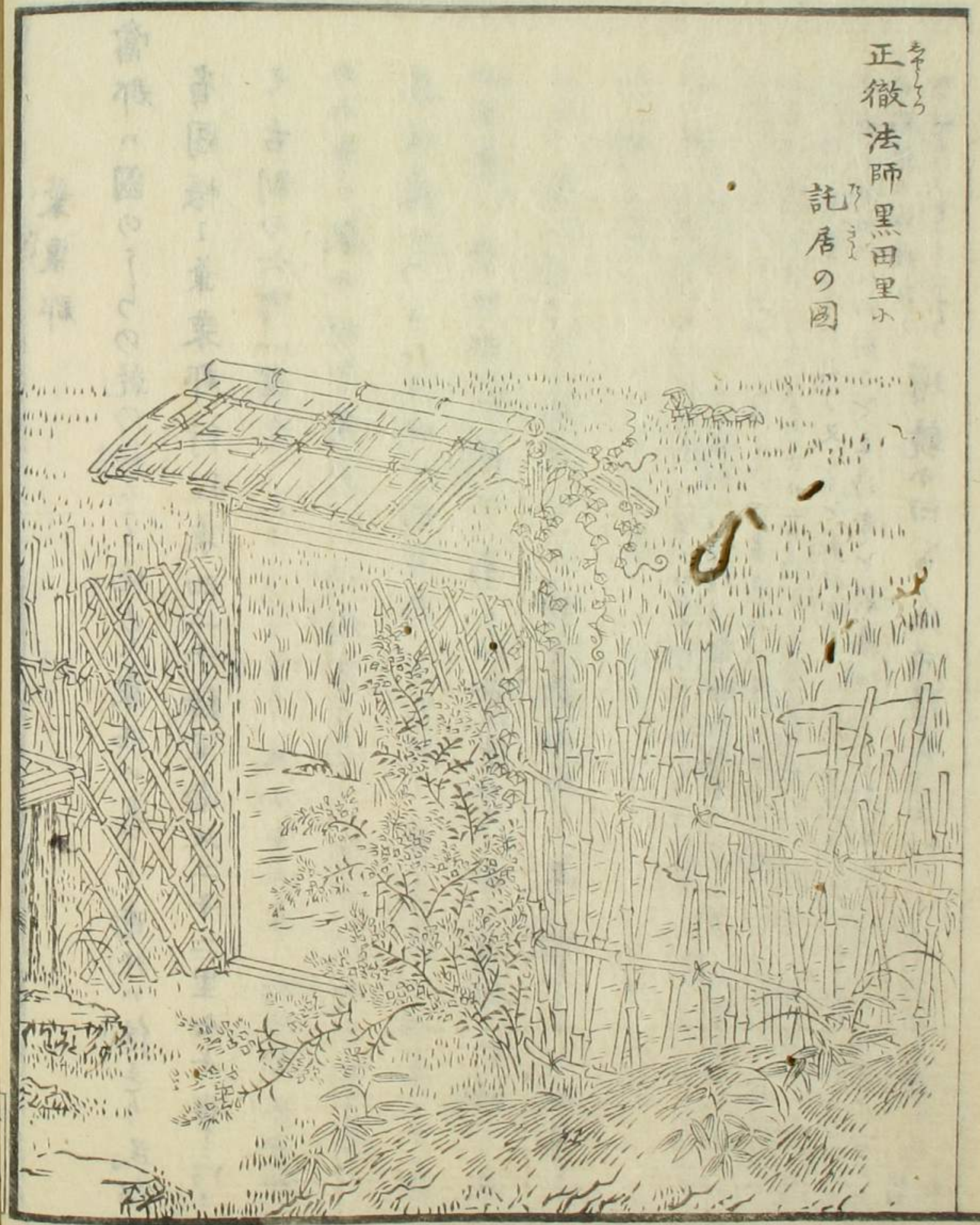
葉栗人磨塚	小塞郷	小塞神社	小塞宿祢
尾関石見守	壽福寺	養蠶の園	妙光寺
石刀神社	宮田天王社	上郡田圃粟林	宮田松
河沼舊郷	魚入天神社	文永寺	千間猿尾
草井大猿尾	名産年奠	村國里	曼陀羅寺
曼陀羅寺 <small>て軍議の園</small>	名産飛保茶	河俣上天神社	
勝宝寺	運善寺	若栗舊郷	若栗橋
若栗神社	宇夫須那神社 <small>八竜社</small>	淺井骨接	

葉栗郡

當郡ハ國のうらの乾の極なる地と東西ハ長く南北ハ縮まり民部省國帳一葉栗郡行程東西二十餘里南北二十二里七十歩と云く古制の六町一里ありて云々天正十二年北の方水曾川のありて數十村を美濃に附屬せしむる今此れありて其美濃のつらなる地ハ羽栗郡とわきて葉文字と羽文字と四至東ハ丹波郡に隣り南より西一まわり中島郡に接し北より乾一とらて本石川と坑と坂山あり平均して田島多し郡あり

黒田里 岐年内を幕の中迄郡一官の北西よりて四ト村を幕の村ありむり官たる系に十七日丁酉黒田と云く東鑑に建久元年十二月頼朝公上洛由の向の休泊と云飾し云々二日西午書黒田と云く和歌の多分の松葉集秋の寐覚等にとり又とと松枝をいひて西園寺殿の清れあり公經の大臣の北北山に西園寺と云く其地資永朝臣の領ありけり尾張の松枝なり増鏡小曰へ出石の清又いさげのゆきつ右大臣實

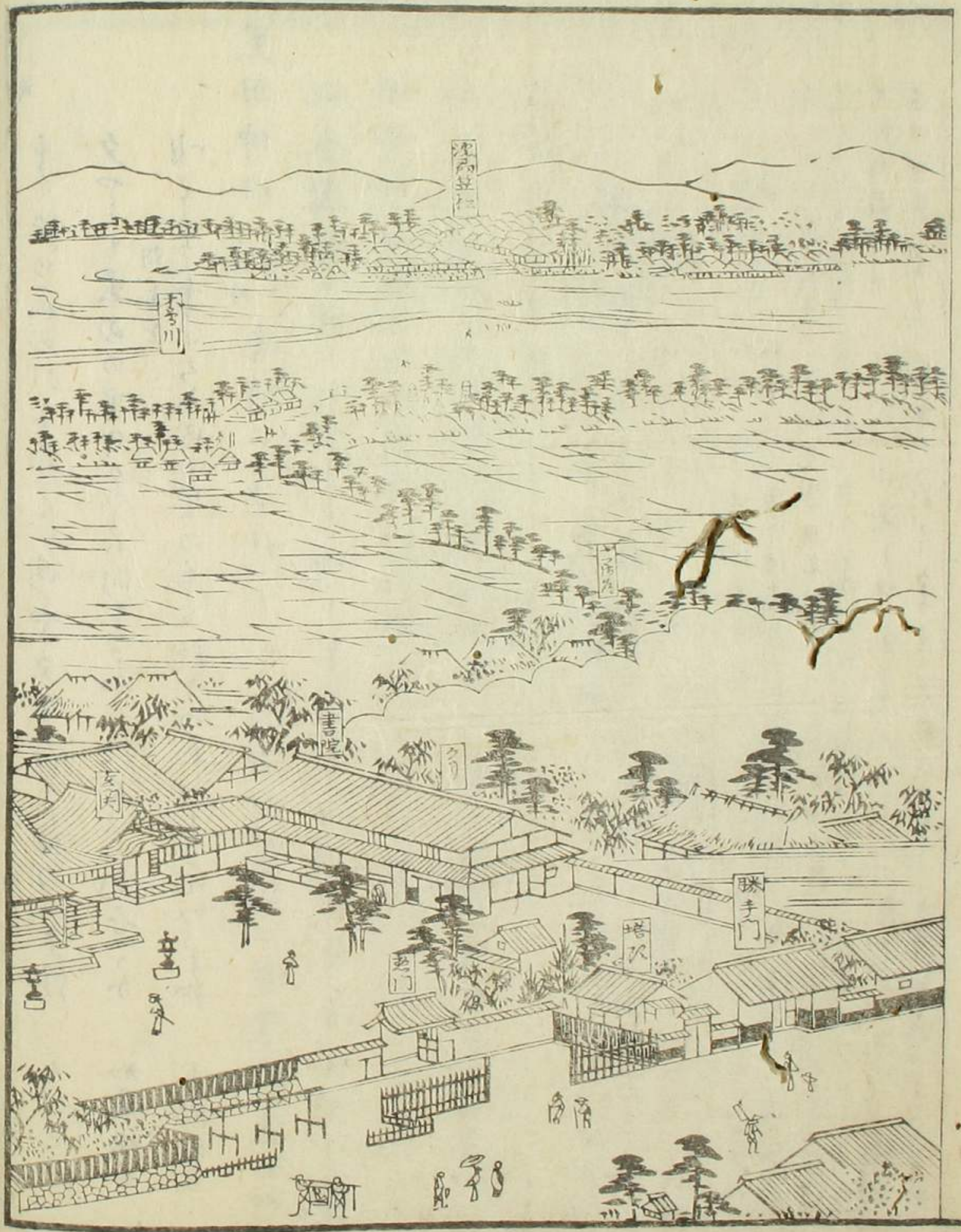
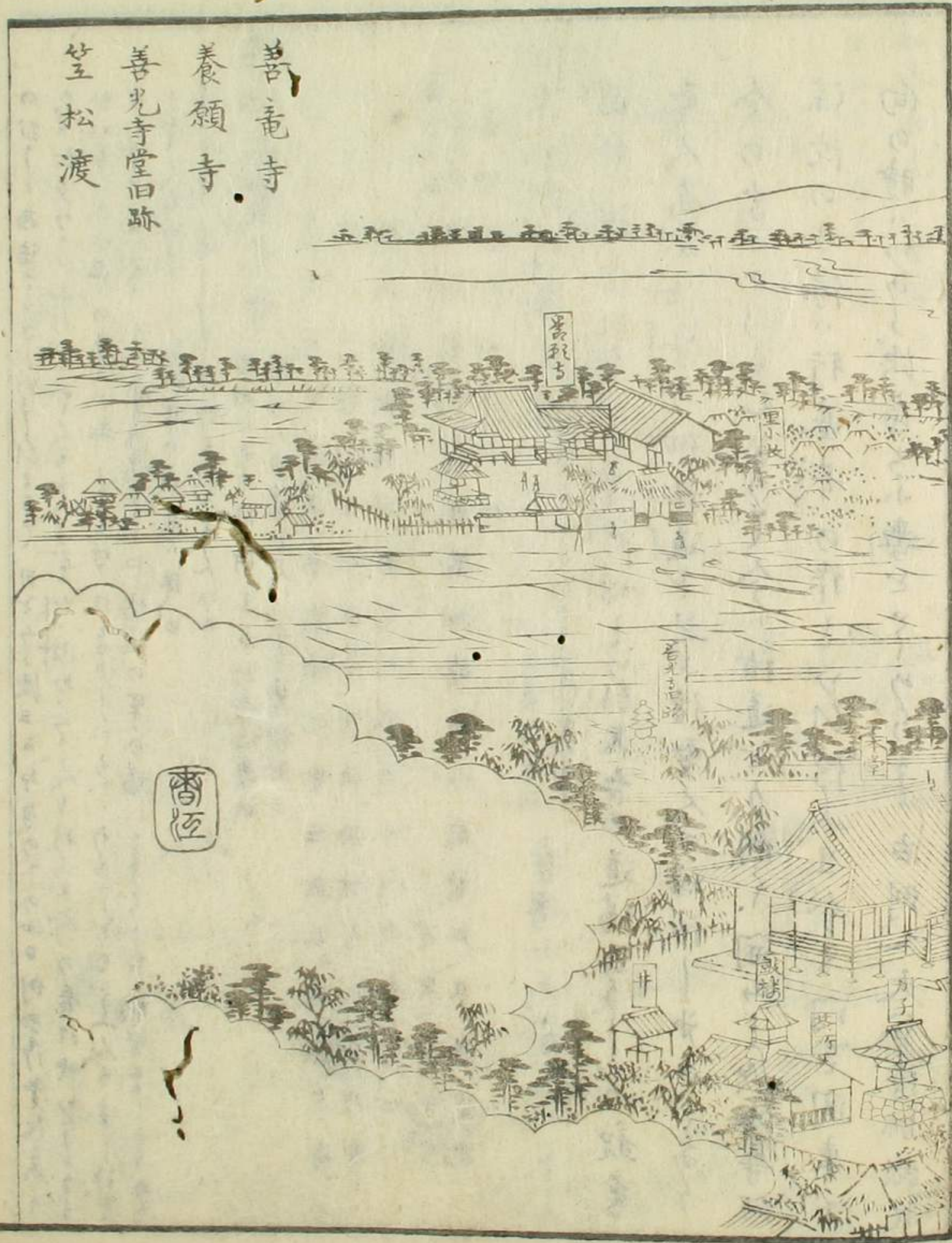
正徹法師黒田里小
託居の園

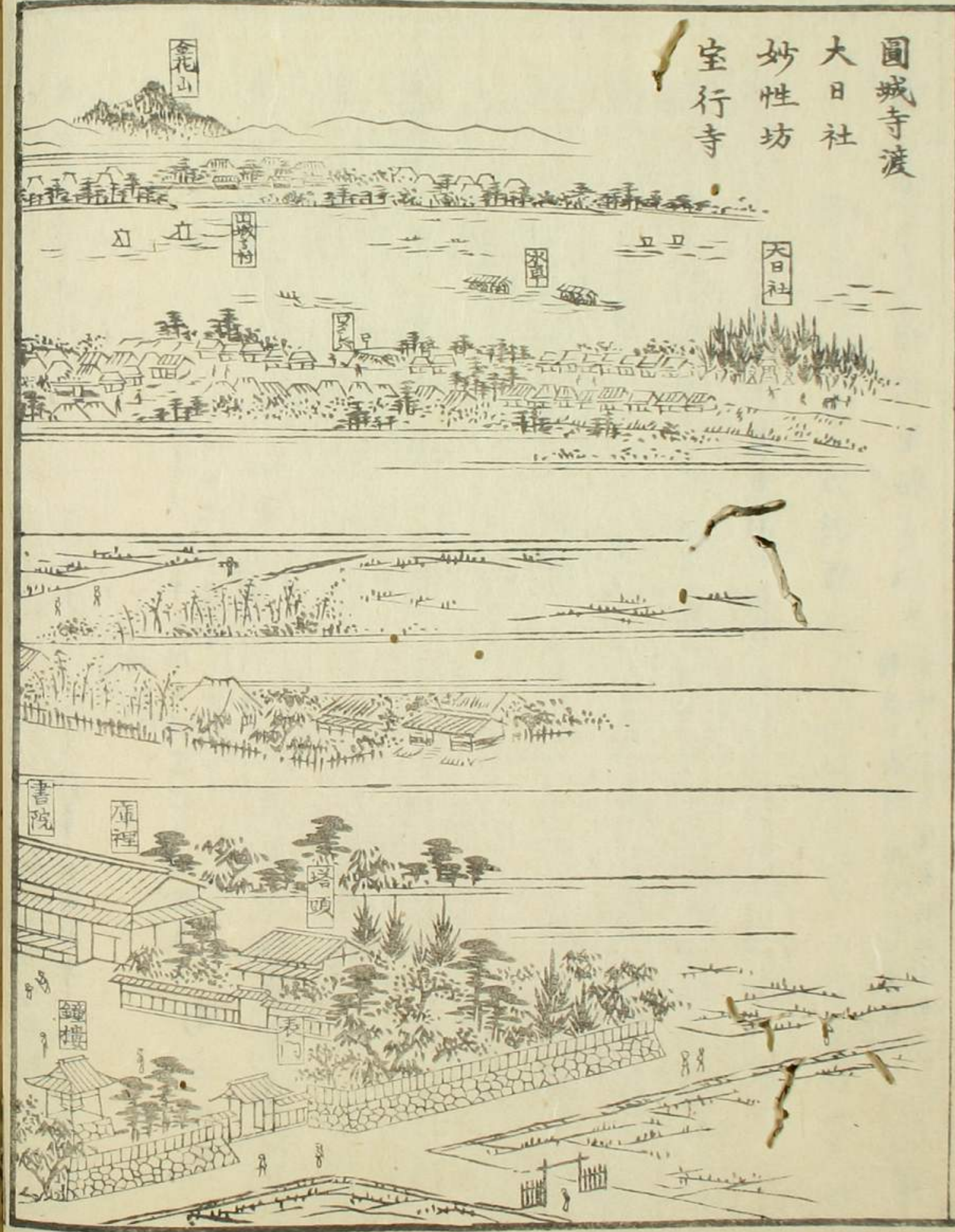


正徹法師字情巖招月菴
と号一東福寺の書記なり
近代の多しとて世にあり
五月九日寂す八十遺稿を
草根集と名づく一備禪問
答良公其序とす
著る所愈草情巖春活
正徹物語正徹千首正徹
百首寺なり

香印

善竜寺
 養願寺
 善光寺堂跡
 笠松渡







玉の井古覧

あへらくさして玉井
のあつてはうらりあつて

泰議雅經卿

明日香井和舟集

あひつりやまゝのりみ
とくをたつたれぬ
袖の玉の井の水

高

玉の井の里
加茂社

秋のあけ

すくもほそき

きのたのしみ

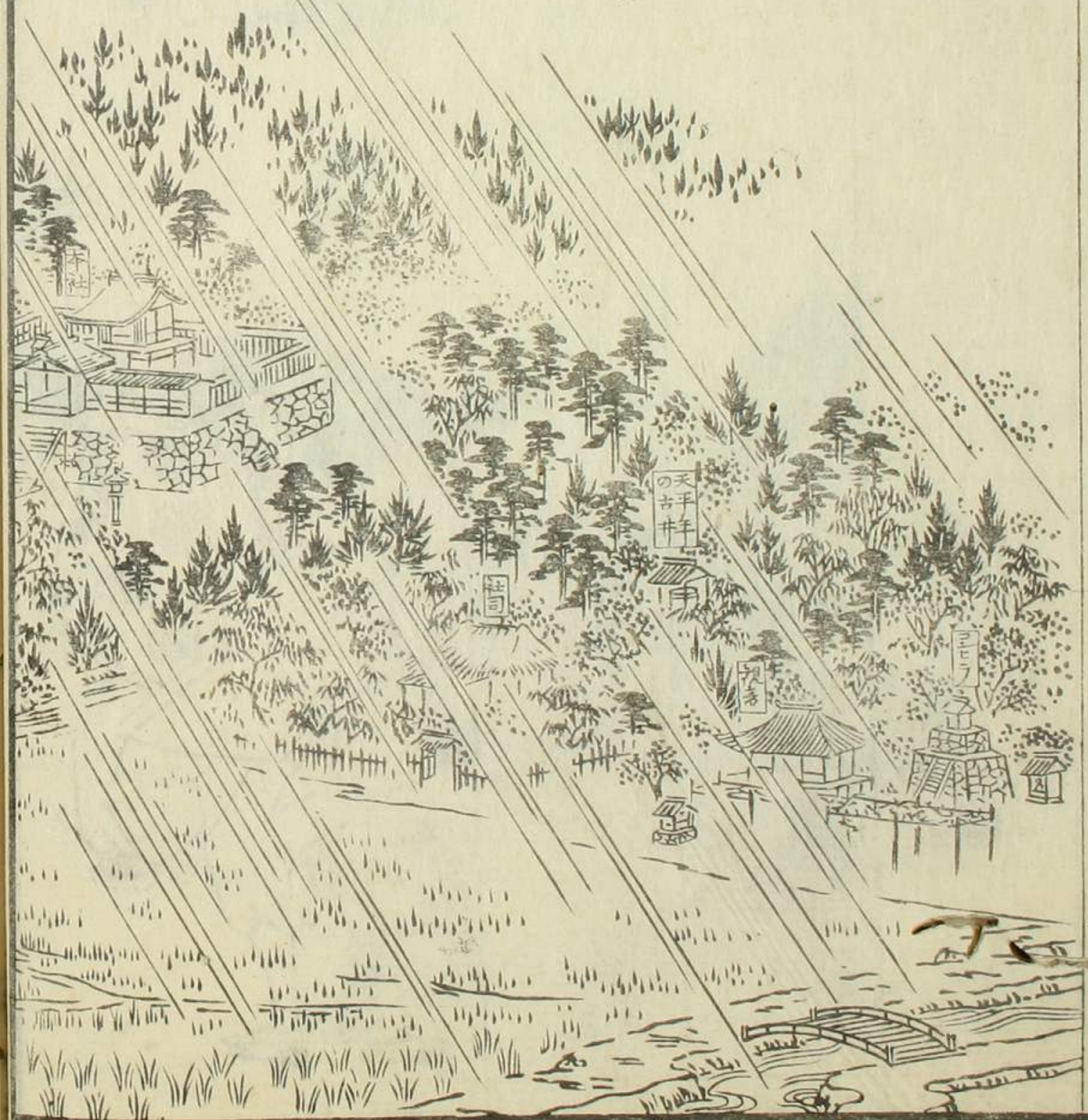
おらうらや

あけ

玉の井の

水

磯足



あけ

きりびの

井のけき

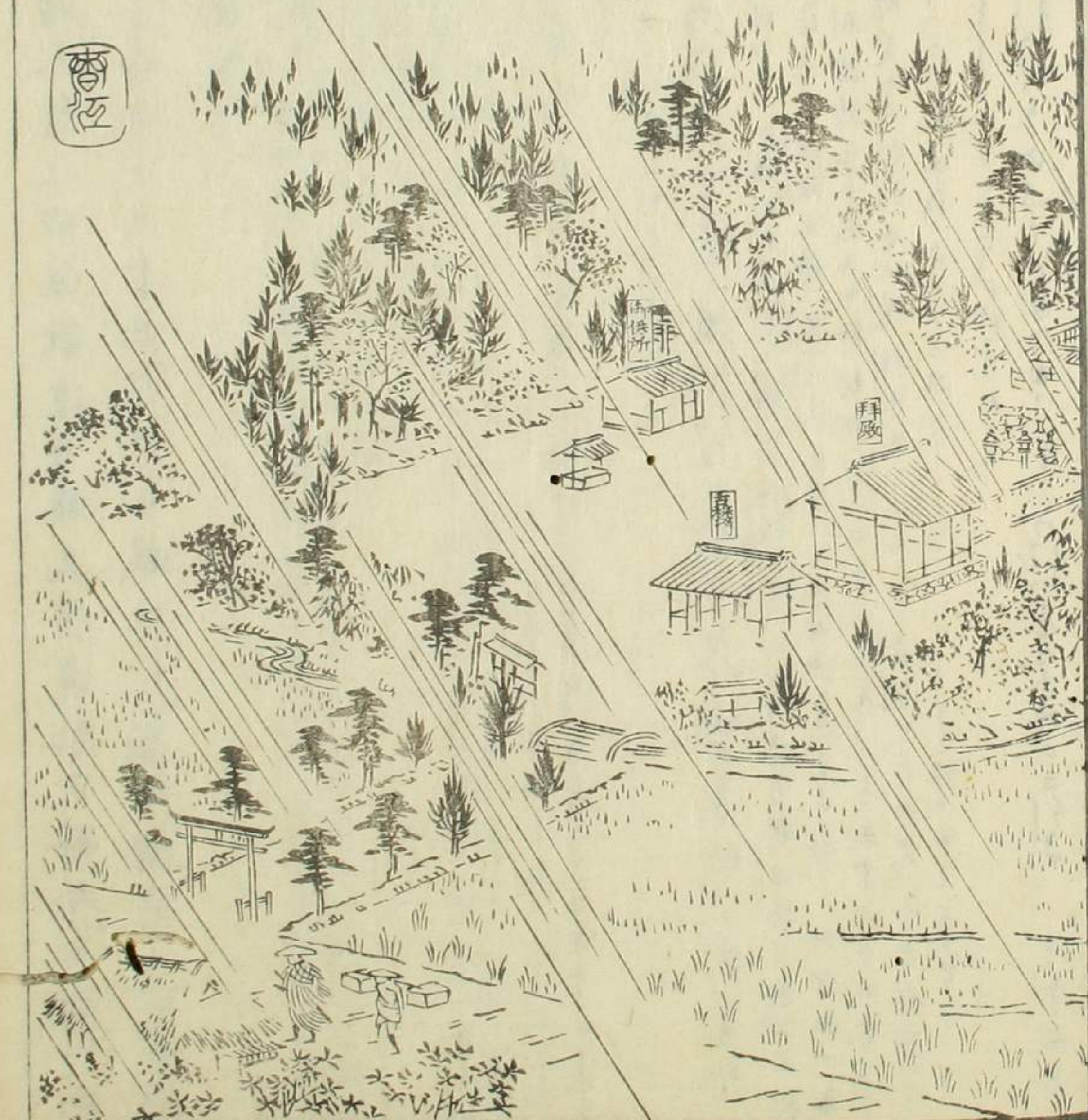
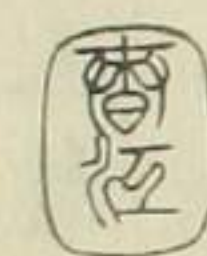
に

あけ

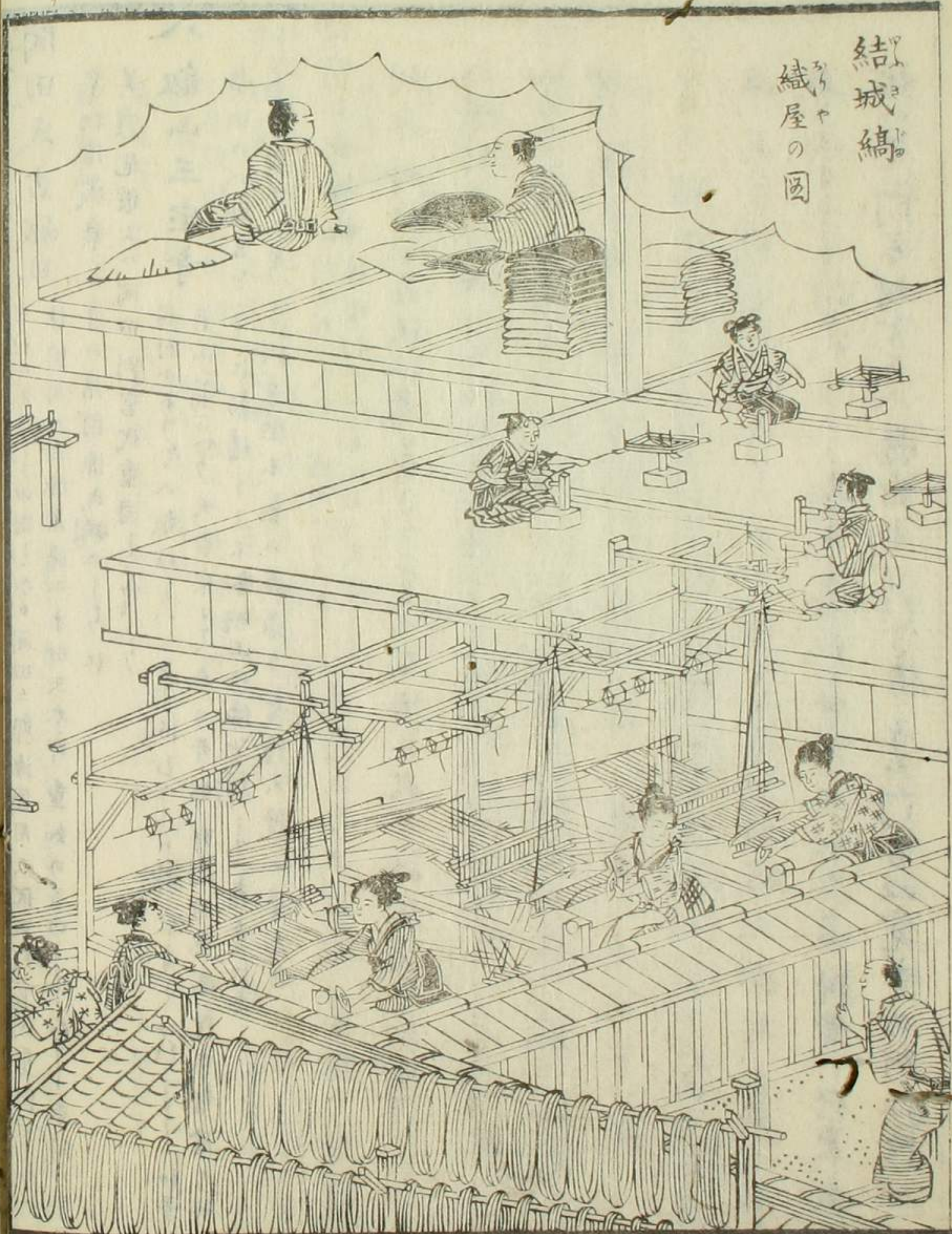
玉の井の

水

秋陸

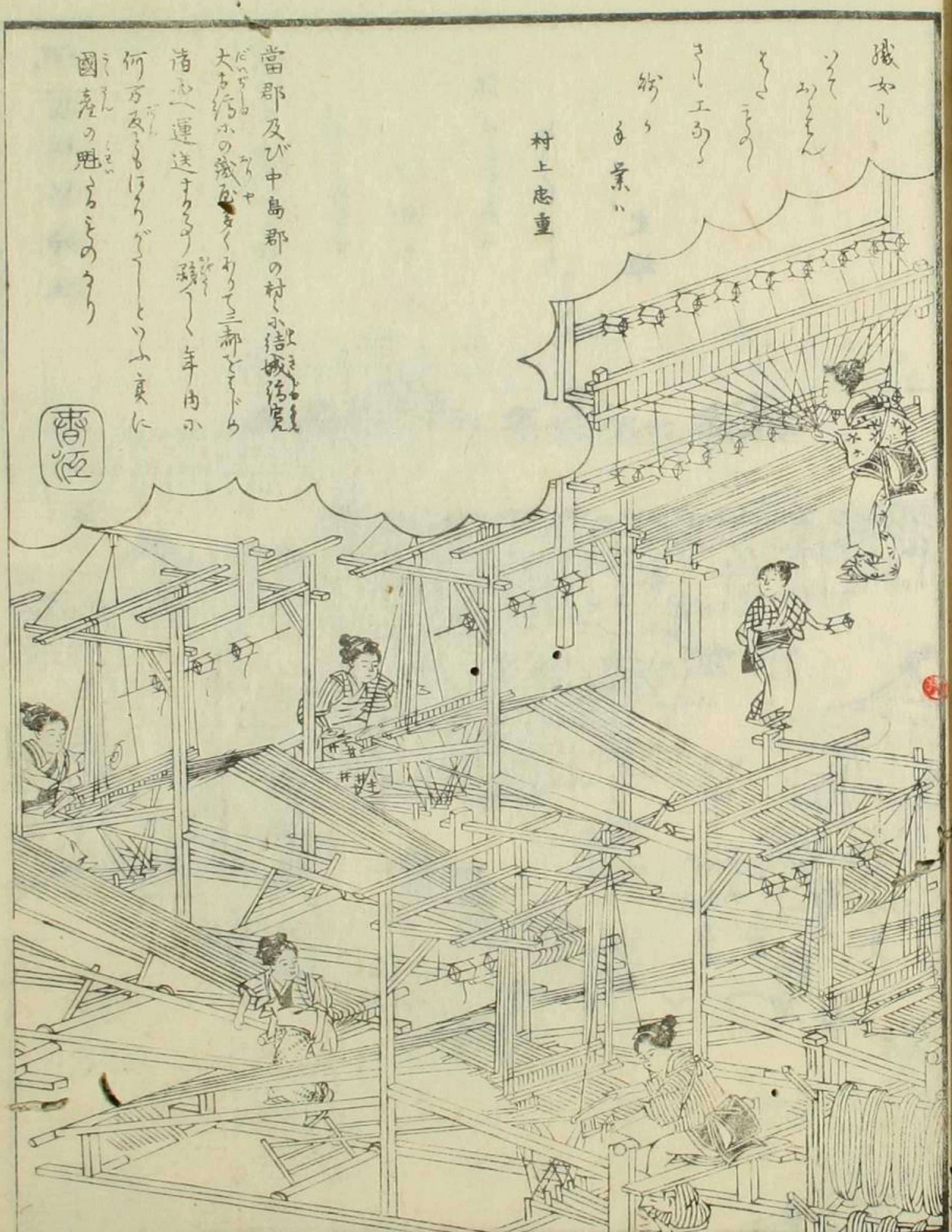


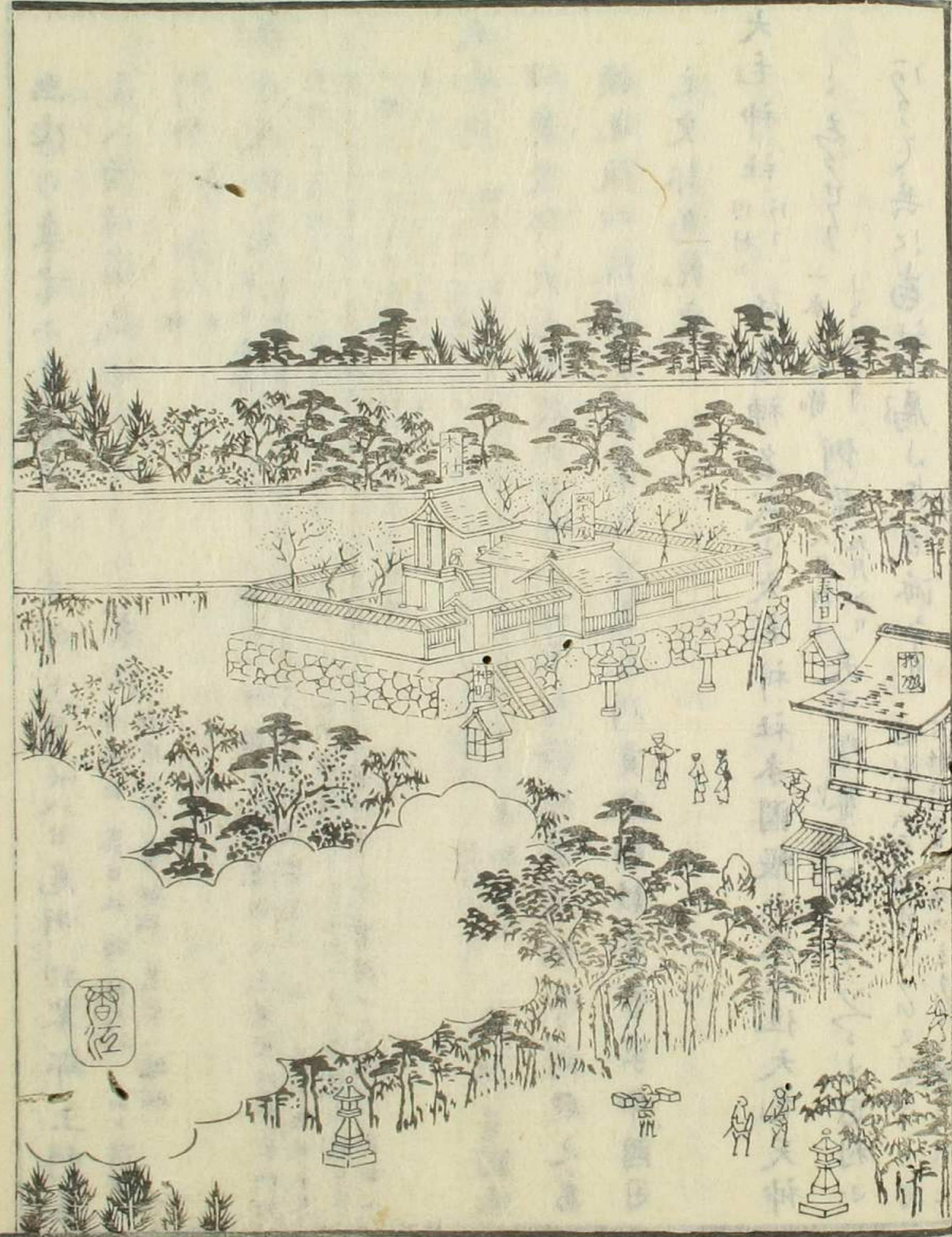
結城綿
織屋の図



織如
子業
村上忠重

當郡及び中島郡の村に結城綿
大古紡糸の織屋を多くありて三郡を以て
清心運送すりて其の年内の
何万及もほりて一とより一
國産の魁なるものなり





伊富利部神社

今も程々には

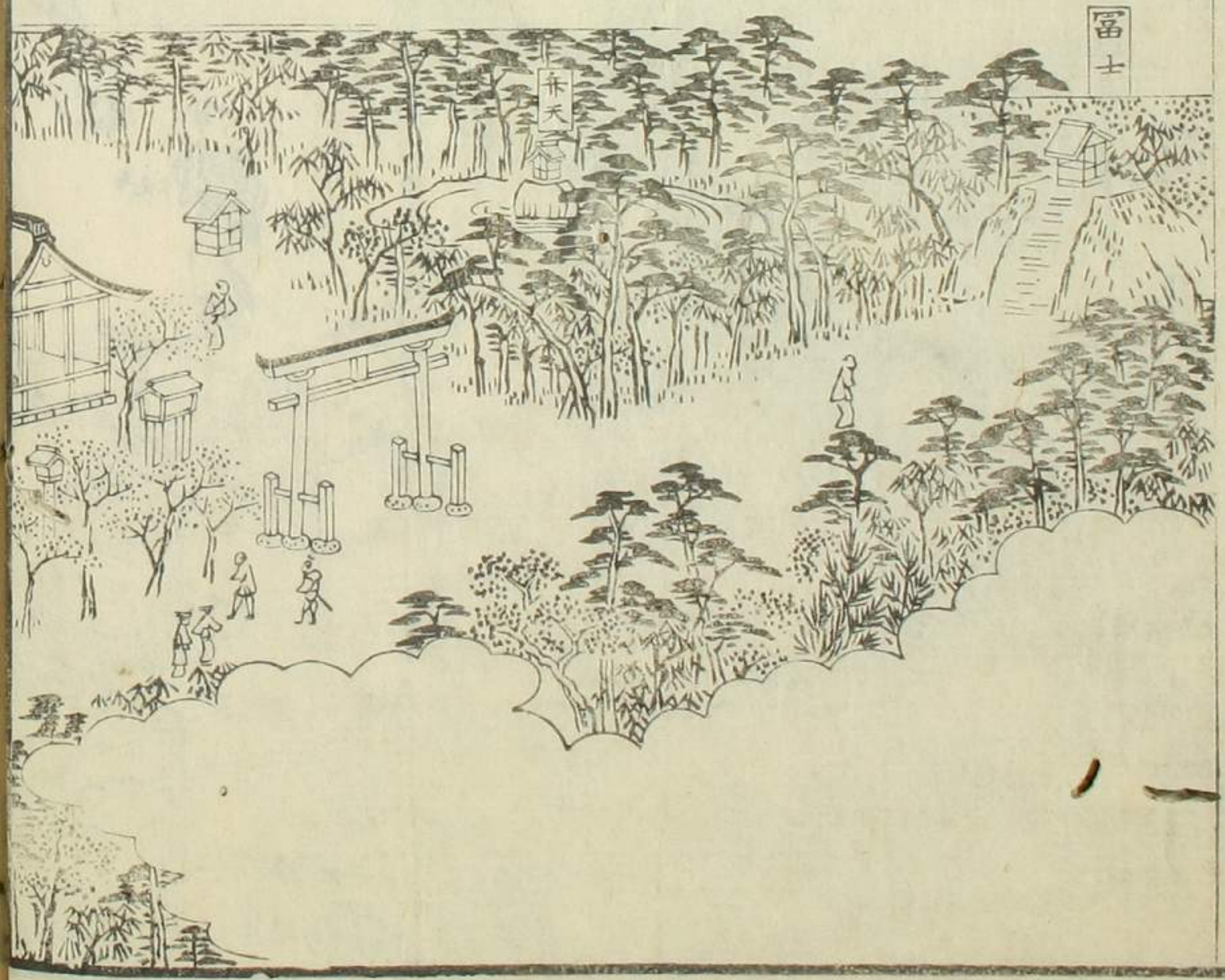
何と云ふ

いゆり一乃

沐のまゝに

わつせまわり

史雄



画像の裏書小享祿四年辛卯上月廿八日尾州羽粟郡上門真

庄八幡村福藏坊と見ゆり末社神明社 春日社 辨財天社 由土浅間社 神宮司社 貴船社 若宮八幡社

例祭八月社人林

佐手原御厨佐手原村をりむり大神官の神領とて神鳳抄に尾張国佐手原御厨と見ゆり今いさらぐとて又本國帳集説の一本に従三位坂手原

天神をある村よりいさらぐ今もあけの夜とてかみ宮跡よりいさらぐ其御正解よりいさらぐ石もあつたむ村一向宗の浄土寺といふ小太子石とて聖徳一又程より目方十二貫目のま丸の石ありこれ別被官の御神

大毛郷今の大毛村をり大毛郷といふ又若栗郷といふも同ト民部省圖帳

曰葉栗郡大毛公穀九百六十七束有餘假粟法性寺岡殿之舊

領也故以假粟充無粟之貢大毛川貢鮫鮓鮓等官家命國司

之史部為乾魚

大毛神社同村小延喜神名式小大毛神社本國帳小従三位大毛天神

と見ゆり一本小大毛例祭八月朔日天子塚入塚と見ゆり同村小

りりて共に由社小屬小古跡あり由社小形明神といひ又ひみぢの宮と稱し蓋し作のまじり人形と

とさめしとんは行ふ按じ小奉行天皇の御代教人形とふ物あり今もあつたむ今も人形の事ハ強き者董集にも委し希しとれハ三葉集の

榮泉寺同村にあり一向宗東山尚寺ハ河世九門流のふりて元ハ天台宗あり

創建の年紀詳かばとて寺傳小白鳳六年粟本人磨の裔孫粟本

源吉夫國改草創し庵入山王家院と稱し又和栗殿と云其後嘉禎年中

の僧法瑞傍天親尊上人小湯依し今の宗に改む其時名を教海坊

了源と初ふ庵入娘所持の雛ハ元尚寺小わさし大毛神社小納むといはれ

極樂寺同村にありもと極樂寺村あり一系是大師の菩提を述さんといふ近きこと何れも極樂寺の信圓上人の所小荒庵の禪寺ありと云後述し極樂寺と号くまはる前々々の条に足んたり

遍照山光明寺光明寺村にあり天台宗天武天皇の白鳳六年の建立小て瑤囊抄小飛

鳥津御原御宇丁巳小中葉粟臣人磨始建立しとるりの尼寺と名づけ

しとる古刹ありとて中古廢絶し其後再建せし寺あり

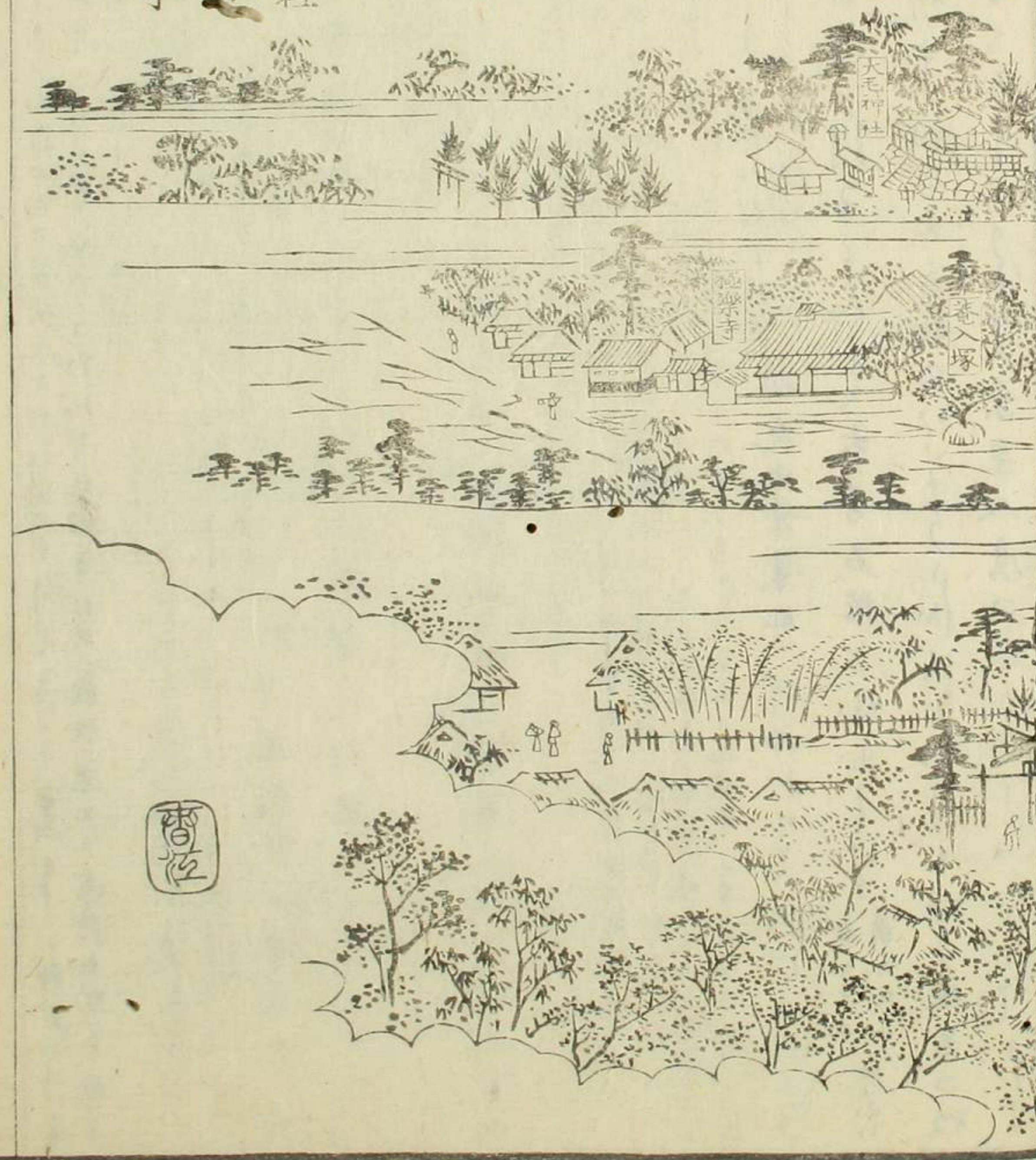
意足居士同寺の住持小て軍部と好む書と略記と神名位とに對ししといふ時意足公の別

に侍りしとて任公の作といはれ書と好む八幡太師の傳と侍り我これと云んと思ふ

保民小ありと授け給はる源家の裔孫とて其傳と法たんとあざりしは神名位といふ意足と云は

めてゆりしこととて其傳とよりいふ意足とて白ハ極樂の傳と法たんとあざりしは神名位といふ意足と云は

大毛神社
廬入塚
極樂寺



榮泉寺

巖
教了花中
今胡山一人
高本辰
梅谷



別荘一ヶ所元康の元の字を家文字に改りたりとのことあり
 天正十二年三月廿三日始に判札号光明寺に所産注意足り
 伯耆守が一族のしん使より
 神君の抄書

極樂寺廢跡

極樂寺村にありむり
 極樂寺の廢跡
 民部省圖帳より葉栗郡極

樂寺寺領四十八束有余以浦領為貢代法然上人三夏不出之

繩室也とあるなり

大野神社

大野神社本國帳より從三位大野天

河田渡

河田村より石川を越て河田の勢あり
 廿二日軍兵波年の後と攻撃勝利を得り

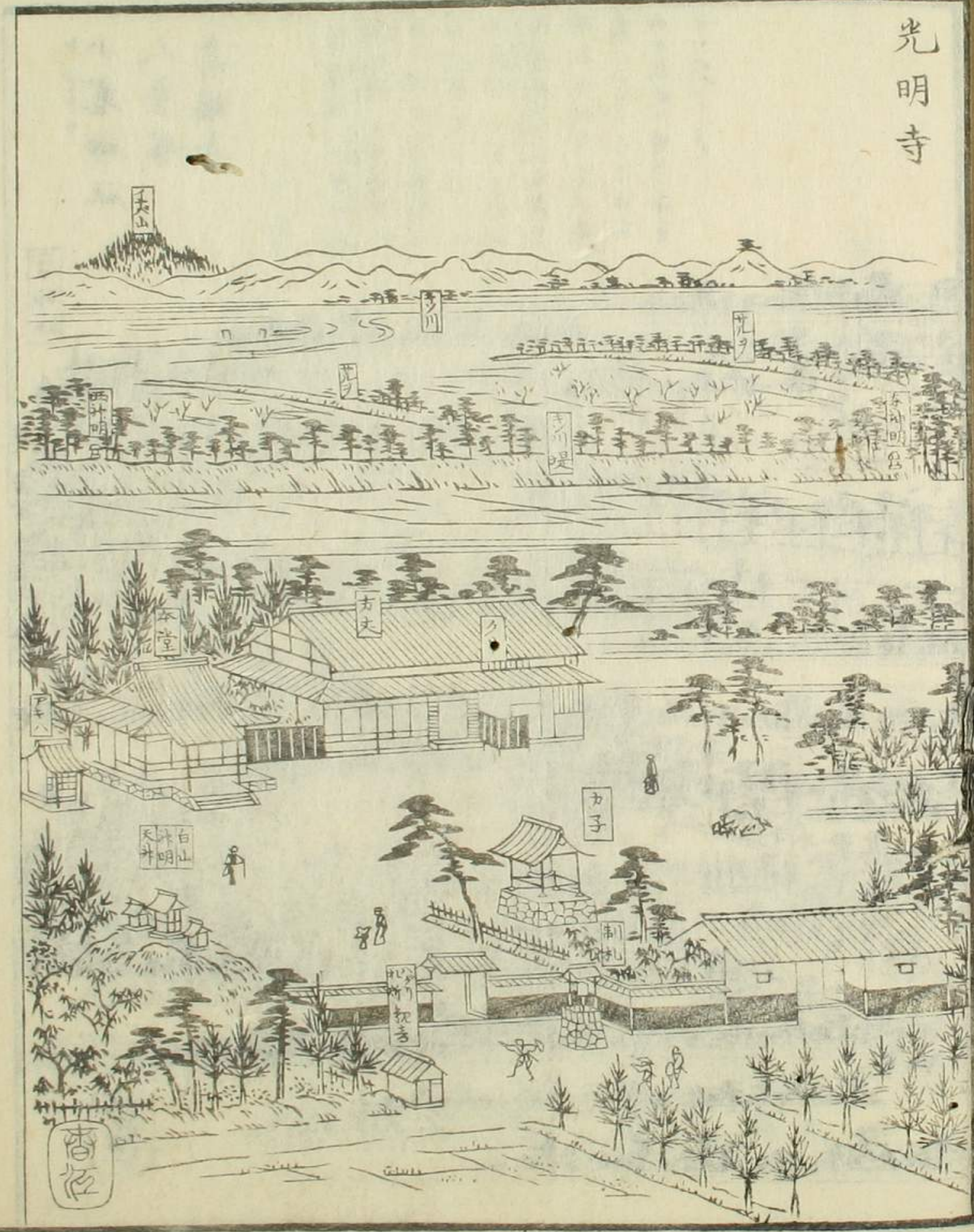
葉栗人磨塚

田村のち四ツ塚と云ふ地あり
 其の古塚多くあり

里の古墳と云ふものあり
 大なる石棺を掘りけり

劍の折るる鉄の古き銅のりあり
 此の破

光明寺

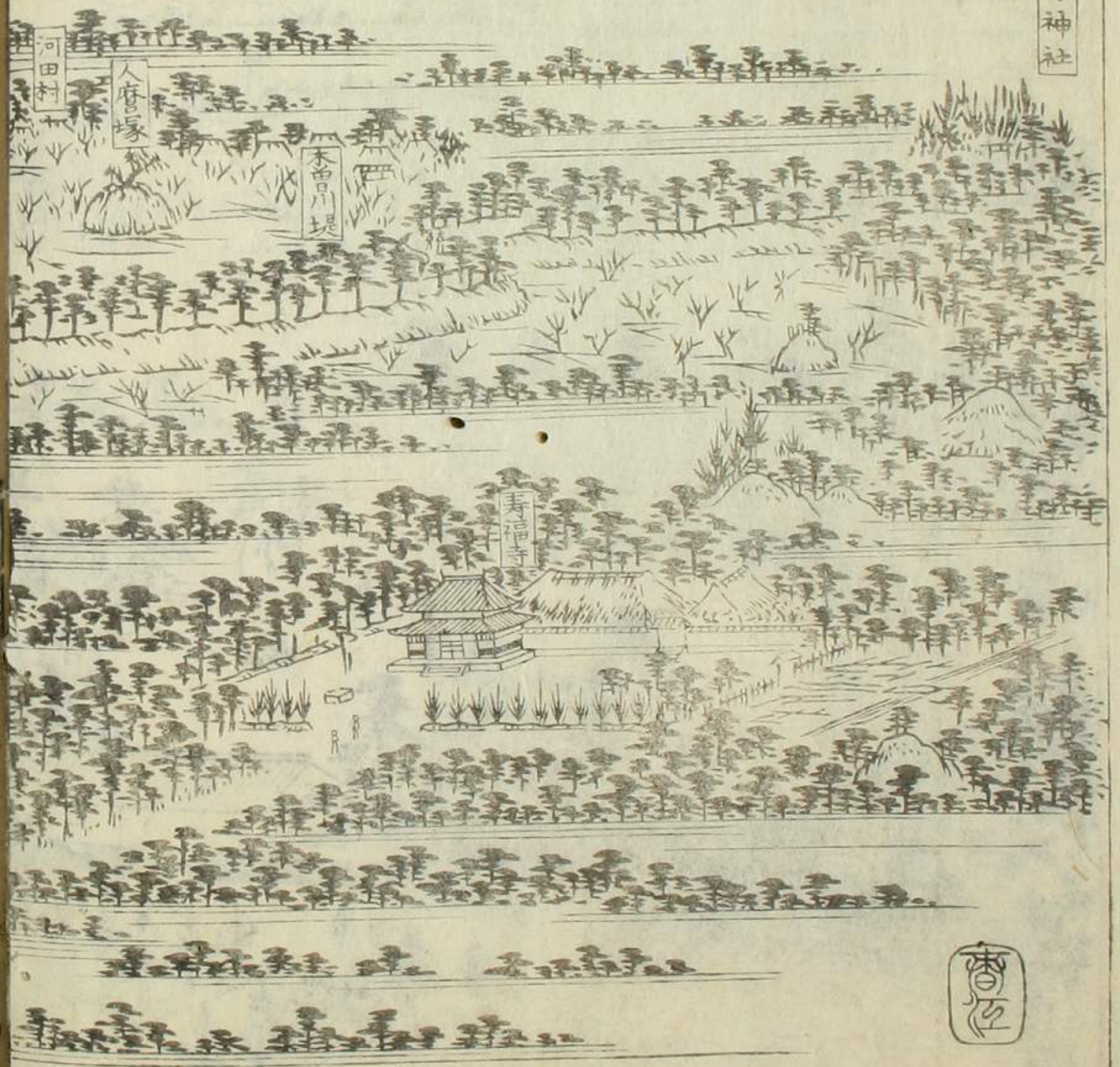


香煙

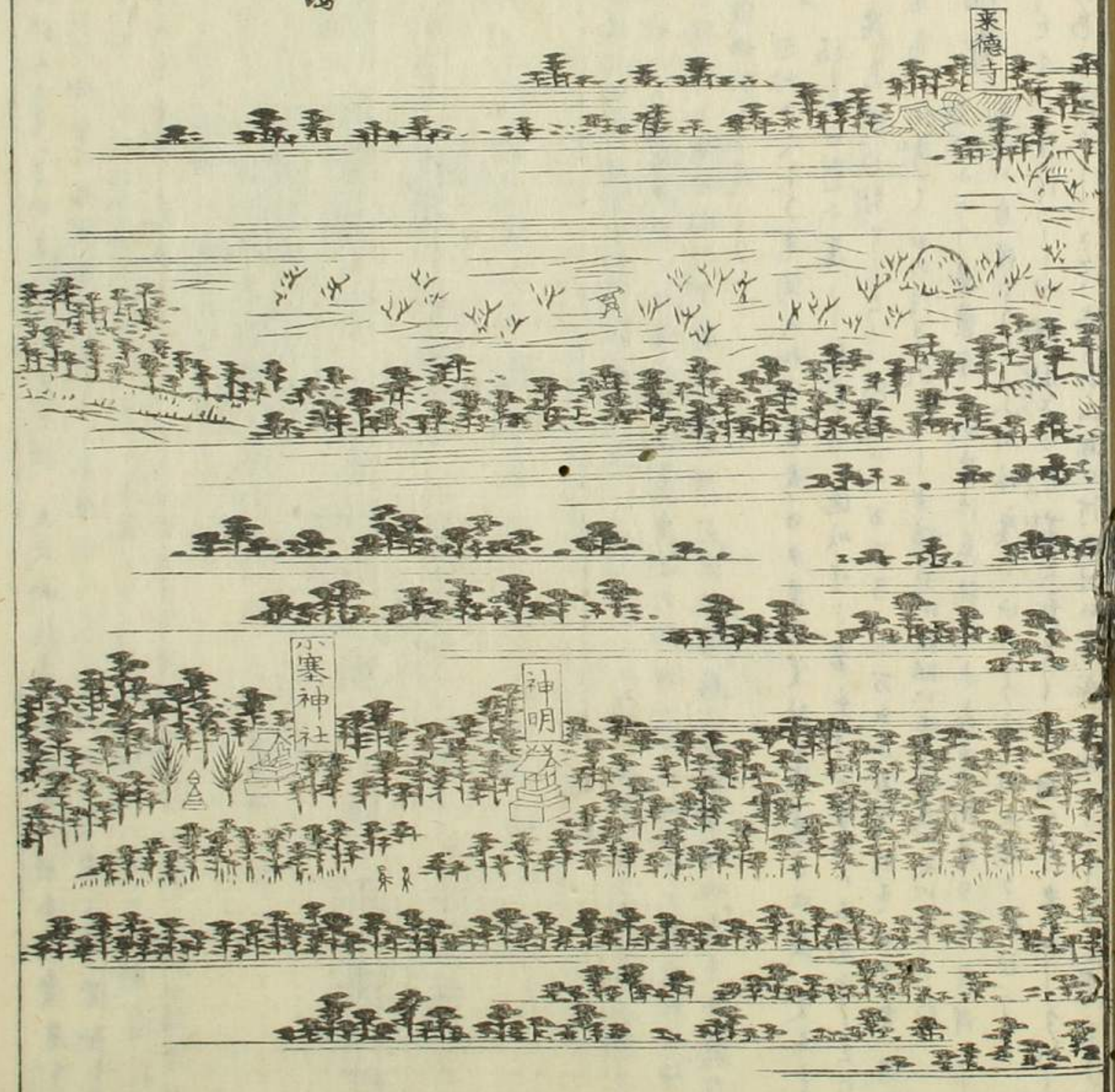
小塞神社
 人麿塚
 寺福寺

石口神社

東穂録に下野那須
 國造碑山城高野川
 北小野毛人墓河内
 石川郡春日村石刻
 大和守知郡大澤村
 揚貴氏墓尾張京栗
 郡河田村栗栗人磨
 墓ソノモ荒多津所
 飯の相延の時寺寺の
 ころまー



素楨
 子
 相の
 維子
 沙
 鷗



小塞弓張等、墳墓あり、文化十四年
丑の秋、山とくろくして石橋と出せり

万松山妙光寺

藤野村より、藤野宗
系、都心寺より

寺傳小文和三年相州漁倉寺免

ちの義海和尚草創天文年中妙心寺の笑溪和尚再建中興

寺室に古燈ありて、寄進妙光寺事、合兼栗郡内野村藤野、四至限東鎮
守天神、右寺領同位、牌田寺奉寄進當寺也、若子と孫々之中致違札

煩者可為不孝之義也、固可守此古燈寄進狀知件
永和戊午四年九月十一日、橋康武

石刀神社

石刀村にあり、式内の社、本國帳、從三位石刀天神、
社、中、高那、あり、本國帳集況、
今も農と桑とて、
尾、
尾、

宮田天王社

宮田村のち、四谷にありて、宮田村の本主神、
廿三日廿四日馬の宮、
村中、
尾、

上郡田圃菜木

田圃及び丹那の村民、
此の、
尾、

此の、
尾、

宮田村及び
近村養蠶
勉勵略圖



養蠶秘録

人小味

蚕かしの女

賢あ

曉臺

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

養蠶秘録

石刀神社



義
定
陸

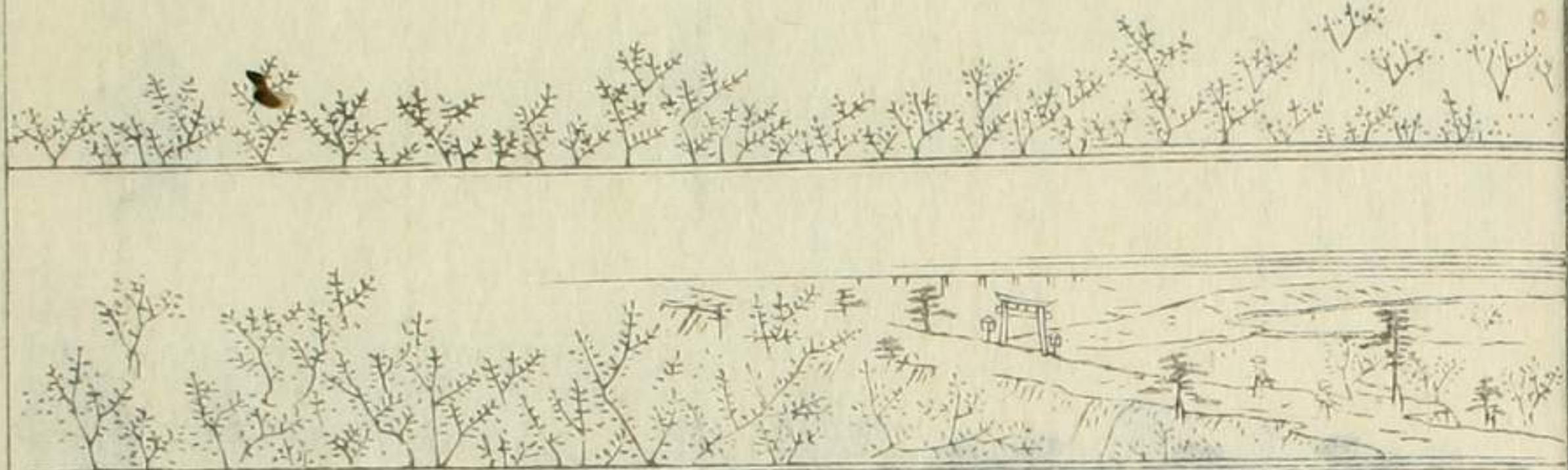
其二
製絲の圖



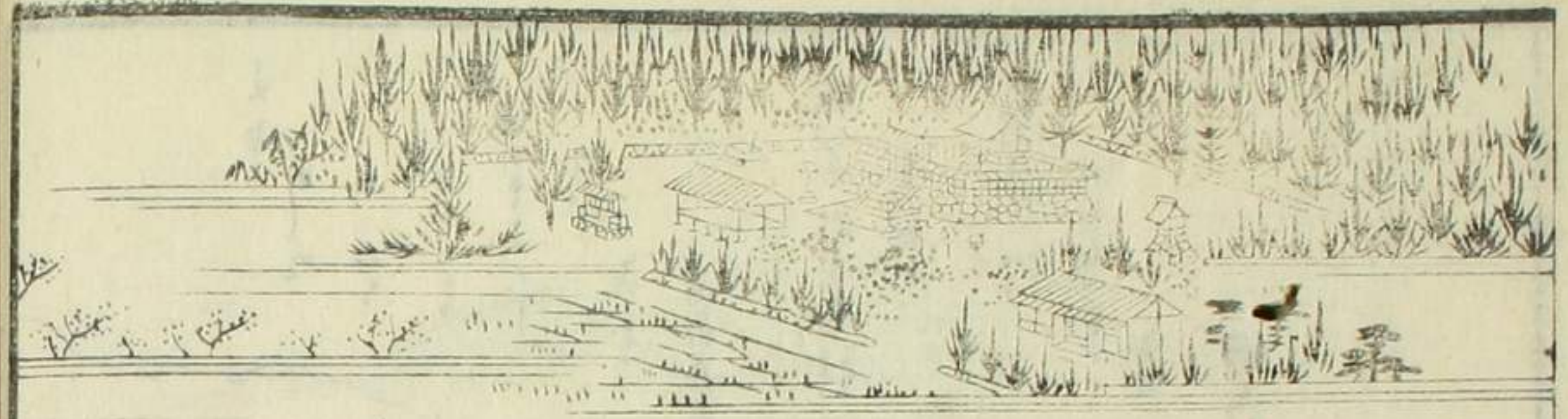
香
佐

桑上郡
林

新
元俊朝臣
桑の
葉の
は
ま
り
を
か
へ
り
て
は
り
を
か
へ
り
を



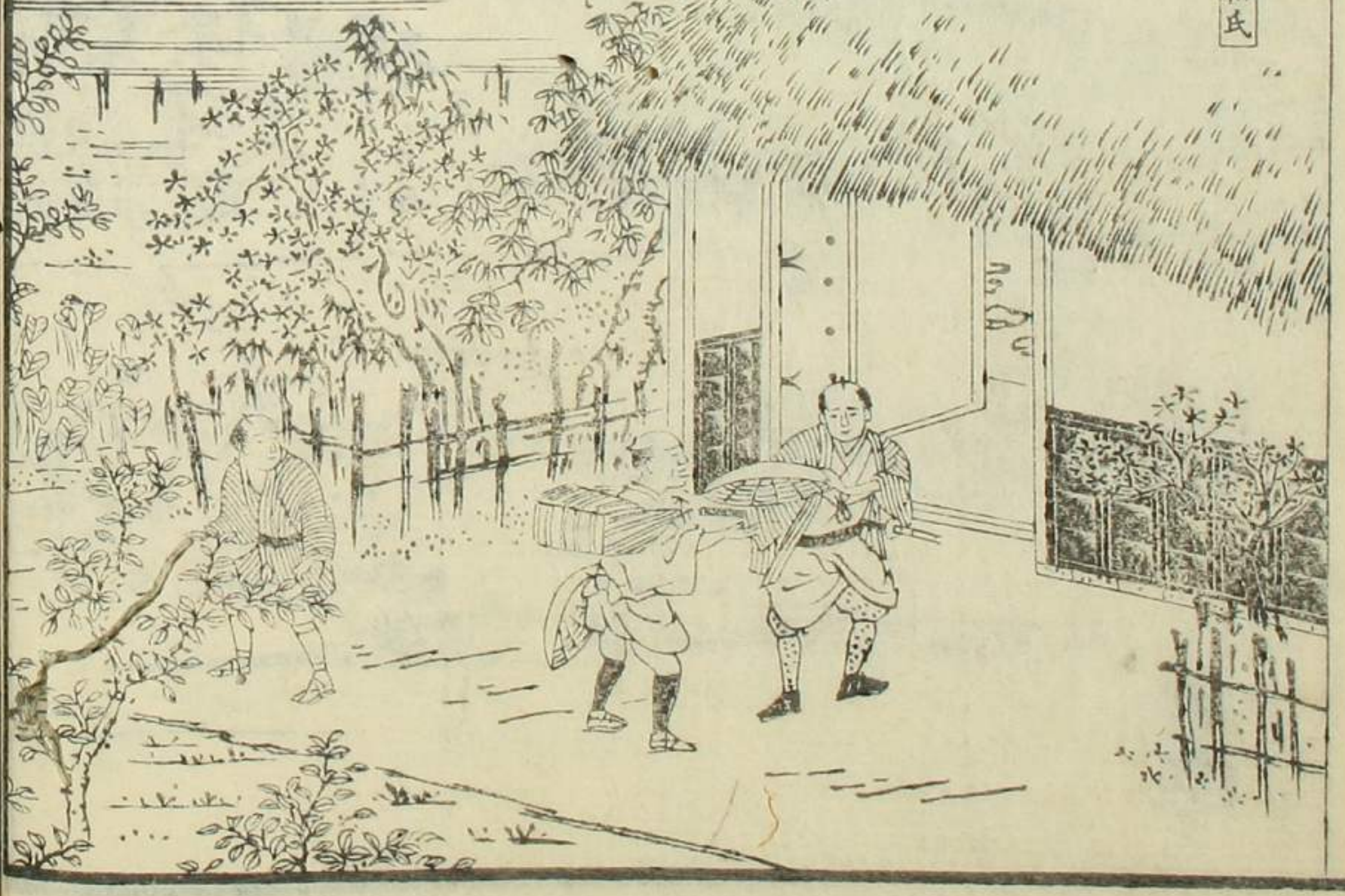
五元集
桑の
葉の
は
ま
り
を
か
へ
り
を
か
へ
り
を



官田天王社

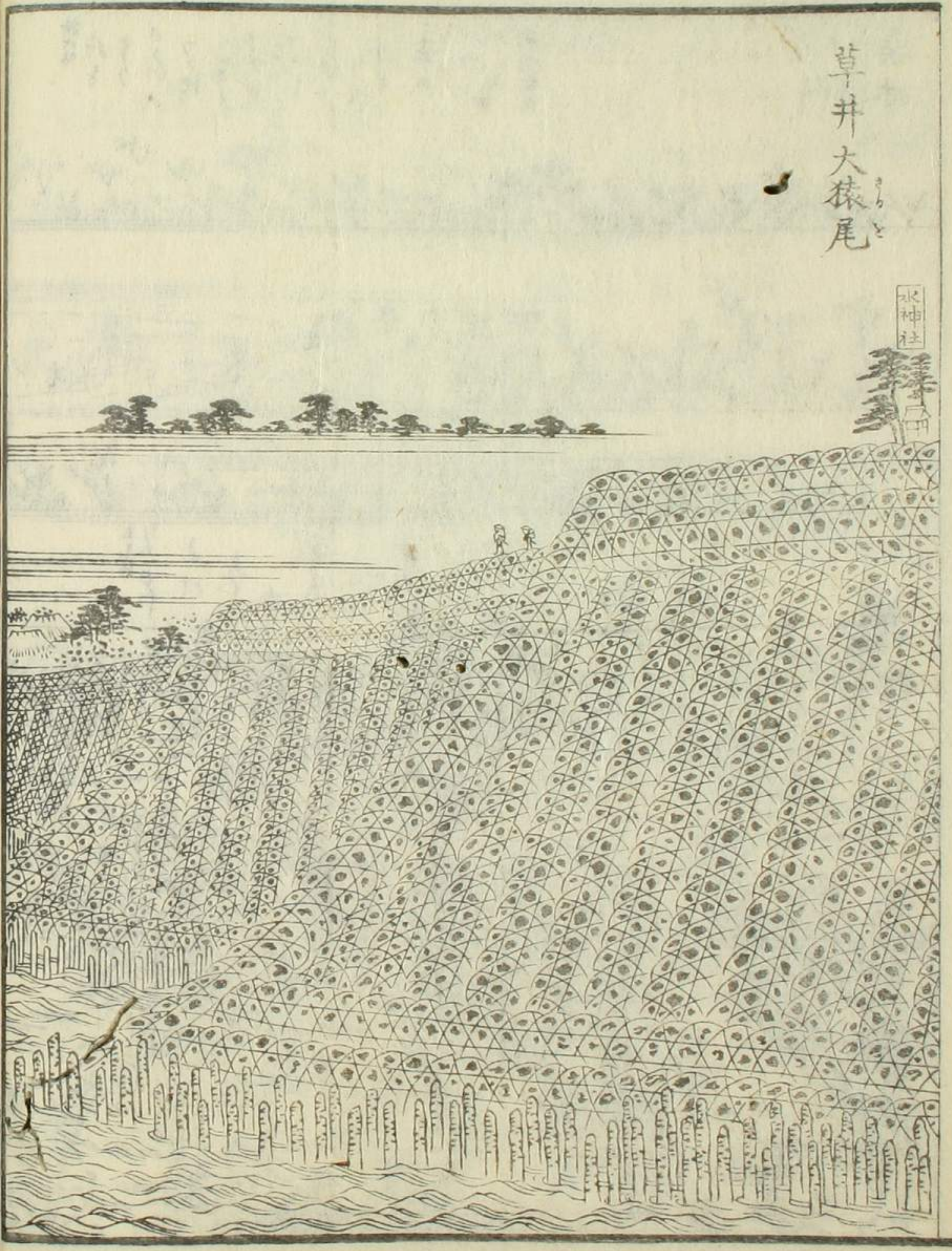


三輪氏



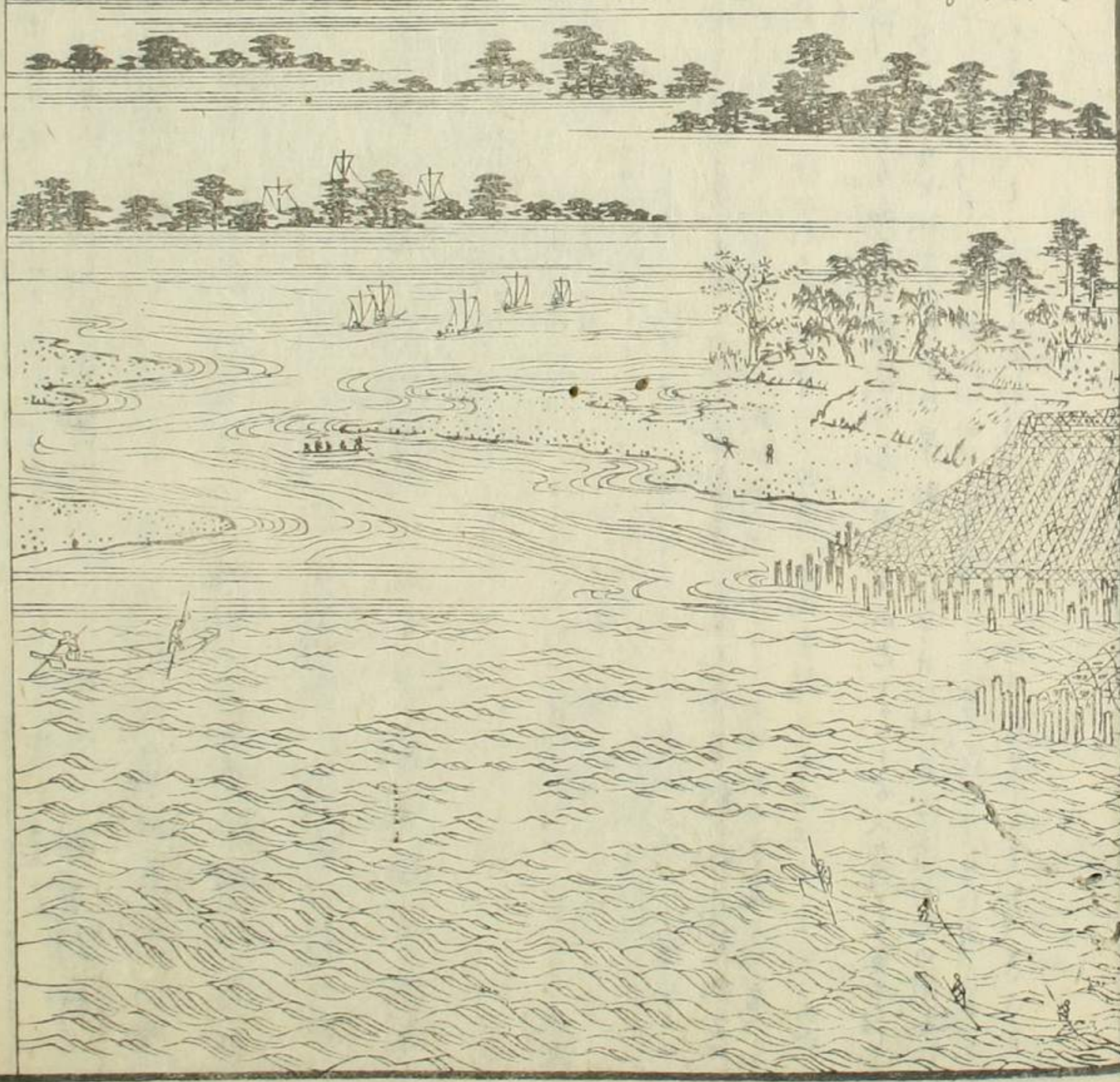
草井大猿尾

水神社



本芳川の激流にして
 此の地やもすれば
 決り易き大造り
 石を以て大岩とて
 積上げ其長三千餘間
 水下に流し出させし
 其石を重に水と浮塊の
 平安と爲せしむる由
 かく石を重と出せし
 猿尾といふ方云々
 石を重ハ清風は多し
 ンともかくる石大石を
 介ある事か一近隣官田
 村麻子と云村水にありて
 俗小千間猿尾と云へり

香



村國里

今の村久堂村より和名抄兼栗郡村國民部省國帳小村岡の法字と見ゆ村
の古状不詳宣當國村久野庄大掌會米事ユモヨク其後の物に村久也も村雲
大掌會の字に村くもの里と云ふも例として村久也も層應の大掌會米の國宣狀曼陀
羅寺に所産するわく大掌會によりて地名と心得るもそのりがごとく天正記に
前編老智那の所村の在るの条に云くこれに略次合と見ゆ

日輪山曼陀羅寺

前在保村より浄土宗西山派永平禪林寺光明寺の西末寺本
朝六檀林の一所りて田舎の本寺と云ふ一紫衣着服免許あり

後醍醐天皇の元徳元年 天真乘運上人鎮護國家のつゆふ叙建

の山号寺号と云其後 後奈良帝の天文十年三月廿五日 勅

願の綸旨と下りて開山上人の花山院内大臣師継公の末孫と

融和尚小浄土の血脉と授け袋中和尚の浄土血脉論も乘運

と尾州曼陀羅寺より智徳兼備する大徳

として康永三年六月十七日遷化と抑安山郡中一の大地りて

堂塔僧坊堯と云く常に称名の絶代浄土の體相もそのわたり

りて無垢清淨の古名刹なり ○本堂 阿弥陀如来觀音勢至の三菩薩の

造立の志致ありけるに折りありて三佛像流さるる光相と

本堂の西より 後花園帝の寛正三年六月廿二日南山寺七世の住持空上人晨時の

勤行とてうひるに老尼一人入来り浄土曼陀羅の一軸を授て有り縁の者一と

見上人ありて法と云ひけるに法と云は八幡社の宮中へ入るやうに曼陀羅と

見是が大和國の當麻寺の古幅と云ふに朝日新堂内にあり入り曼陀羅

小狀と愛相の光明繪とて衆傍の目と驚くこれ教表のわたり別堂といふも曼

陀羅とありて其時香盒の中より文殊菩薩の小像現れたり其像今程作り

香盒の文殊と稱はりて山号と改りて日輪山曼陀羅寺と云ふ

鎮守八幡土

方丈の前の左の方にある炬籠家集に法と八幡宮を改造し作りて浄土

稻荷社

境内に 寺寶東坡芭蕉画沈周賛 幅一 朝鮮人筆西湖圖 幅一

舜拳花鳥

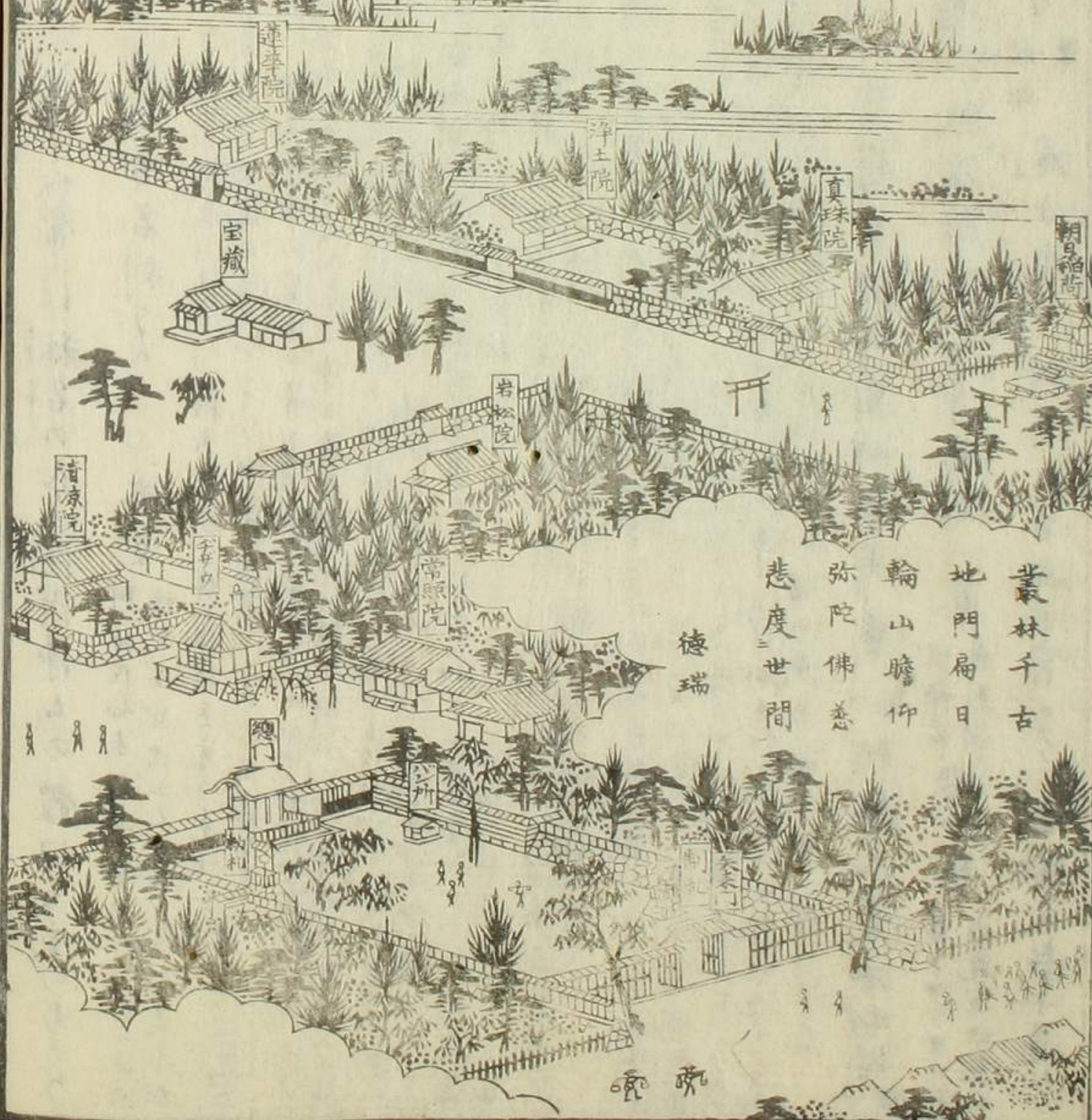
三 牧溪繪 幅三 當寺縁起一卷 國祖君 御著撰 同一卷 高四十世の位

大三尊

顔輝 尾上形半鐘其の古画古書多く古證文數十通あり

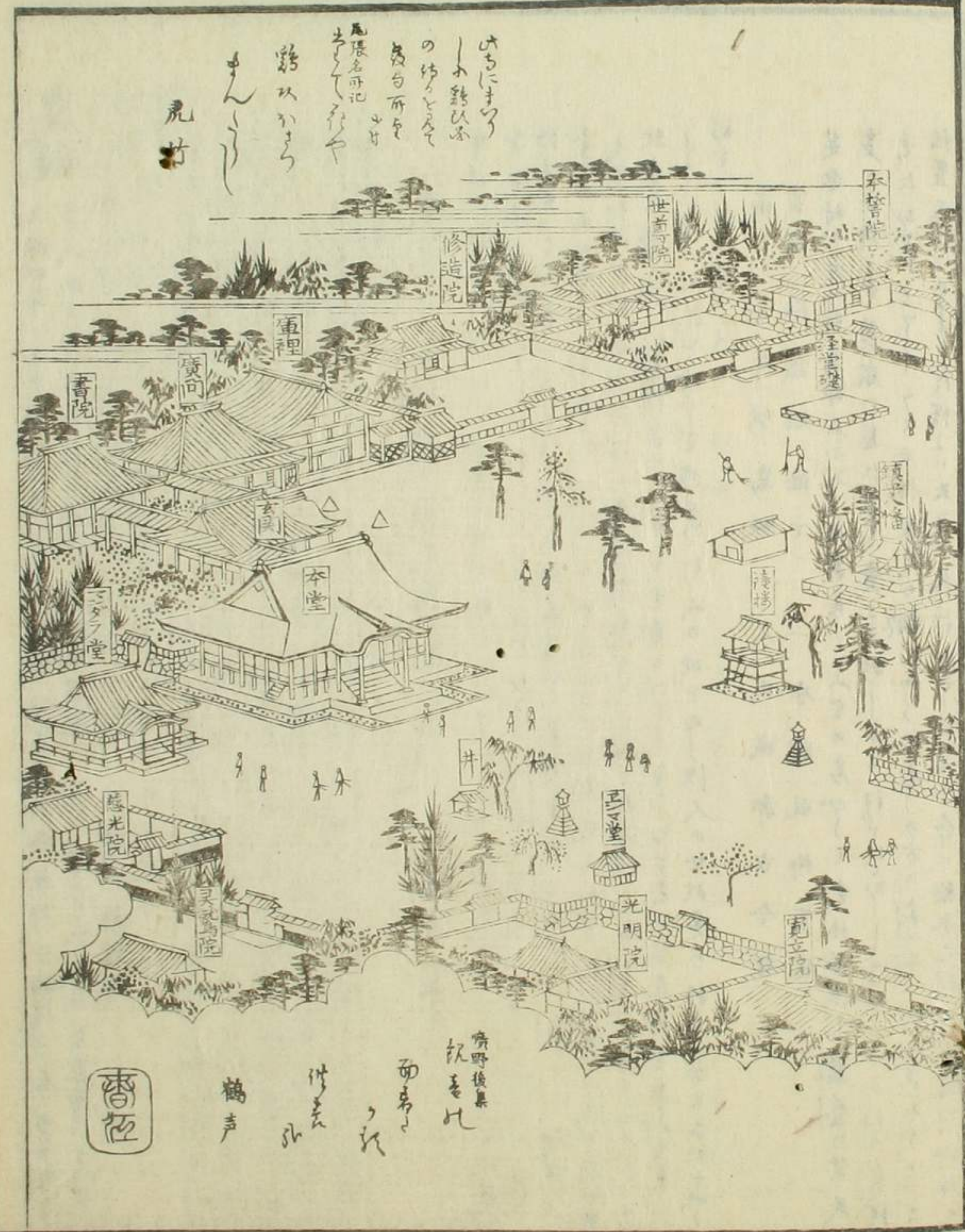
曼陀羅寺

この寺は永享八年
の法大師の百年の
を忌にあんめくり
をふりて云々人々に
あつたおもしろい
ところあり大和守
つとあることのも
そのかゝるはくろ
昔の御前より
つとあることのも
かゝるのまゝに
いさりのまゝに
さけ奉るまゝに
ことあり
又記て
神を志す
六百年の
本やむらと
去のいかに
炬籠



叢林千古
地門扁日
輪山瞻仰
弥陀佛慈
悲度世間
德瑞

囉囉



ひまにま
一小時以
の坊とる
後白所を
鳥張る可記
去りて
路みか
らん
虎竹

香

鶴声
付去
面
杖
杖
杖

曼陀羅寺軍議

岐阜攻の時諸將
先飛保の寺院に
入る小幡軍評決
ありし他田輝政等
入廟一行より老
某ひとも小幡下
りやん私法や
り輝政もつて
産もゆきも作
をさしとむけ
田の法とてい
ましとて受院
殿のの方丈時
若和尚其時
小幡も對茶
の終住ぬか
右の極もも
尺とむかし



けりもあん又津
将川越のよと
派せしむがひ
比世水のほも
あほく火
備
し
とや彼係
幸にお清
せし塩丸
かんり



香

河俣上天神社

神杉の

言さむと

そろうと

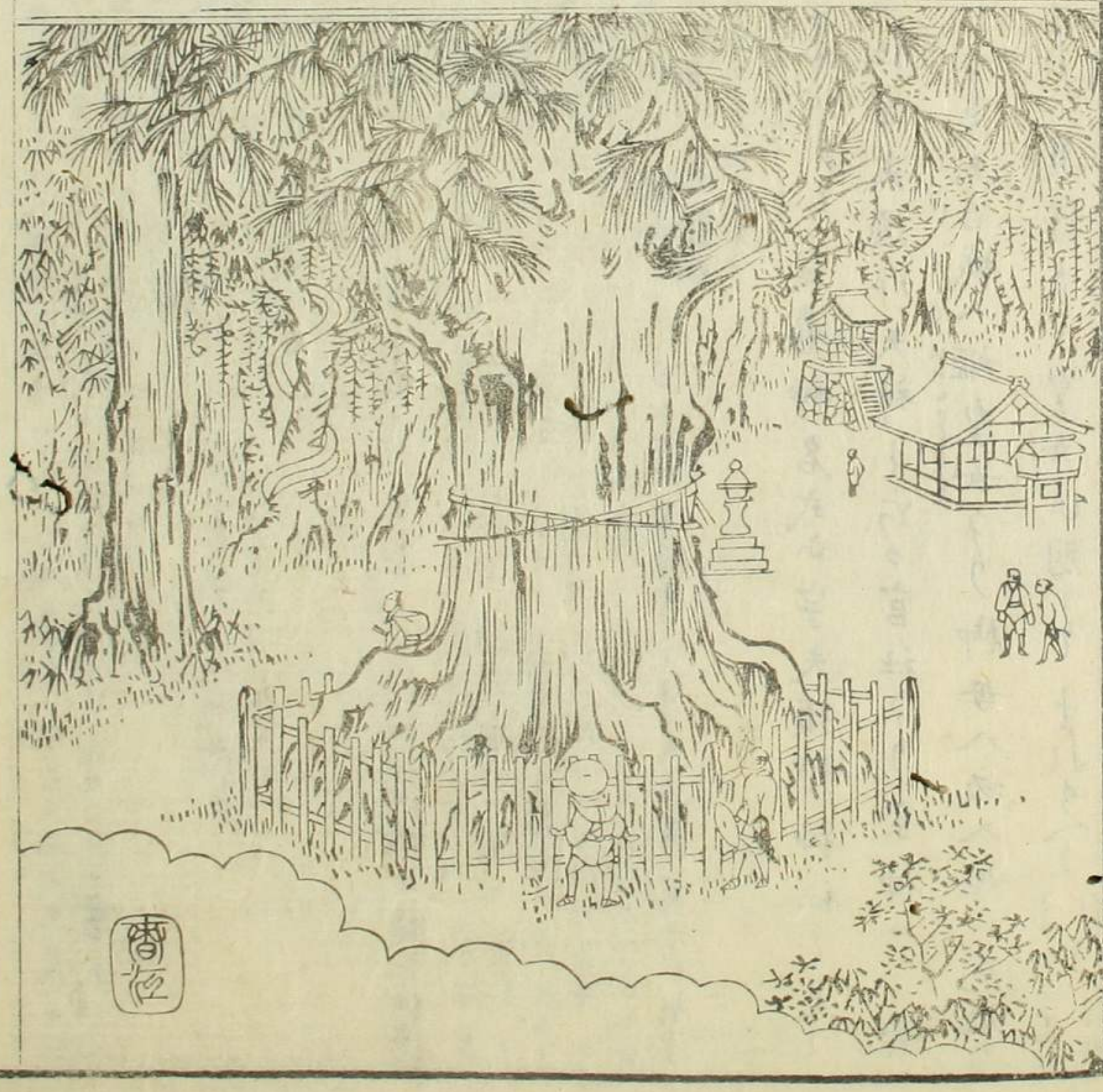
上ささむと

友ハ俣ら奉

夫部典則



言九
茂りくか
好る居あす
考進ハ



香煙

由依一今の家に改むる由ちの入位坊の本像ありてハ國東より吾人の跡と云ふハの
 常陸國大曾根常福寺の祀りありけりハ吾人の跡と云ふハの
 の一ツとして倭僕三才國會の祀りありけりハ吾人の跡と云ふハの

若栗郷 舊村のうら字和栗と云ふ地あり和名抄及び民部省
 國帳小栗栗郡若栗と云ふハハ名の抄ありけり

若栗橋 四村のあり若栗の旧郷の
 橋の名にのうらありけり

若栗神社 同村のあり今
 延喜神名式小若栗神社本國帳小從三位若

栗天神と云ふり祭神ハ羽粟臣の祖神 天押帶日子命 民部省
 國帳小

若栗明神神田三十有餘東光國司之受税
 和銅二年所祭饒速日命也と云ふハハ
 社人 松本氏ハ若栗神社の旧地にありけりハ若栗上
 西方院のまうりハありけり室曆十三年ハありけりハ若栗上
 奈神社の社務少く久しき梵刹ありけりハ若栗上
 兼ね修理亮正吉吾具ハハ若栗に據
 せハハ明治元年八月若栗ありて社人と云ふ

宇夫須那神社 同村にあり今
 延喜神名式小宇夫須那神社と云ふ

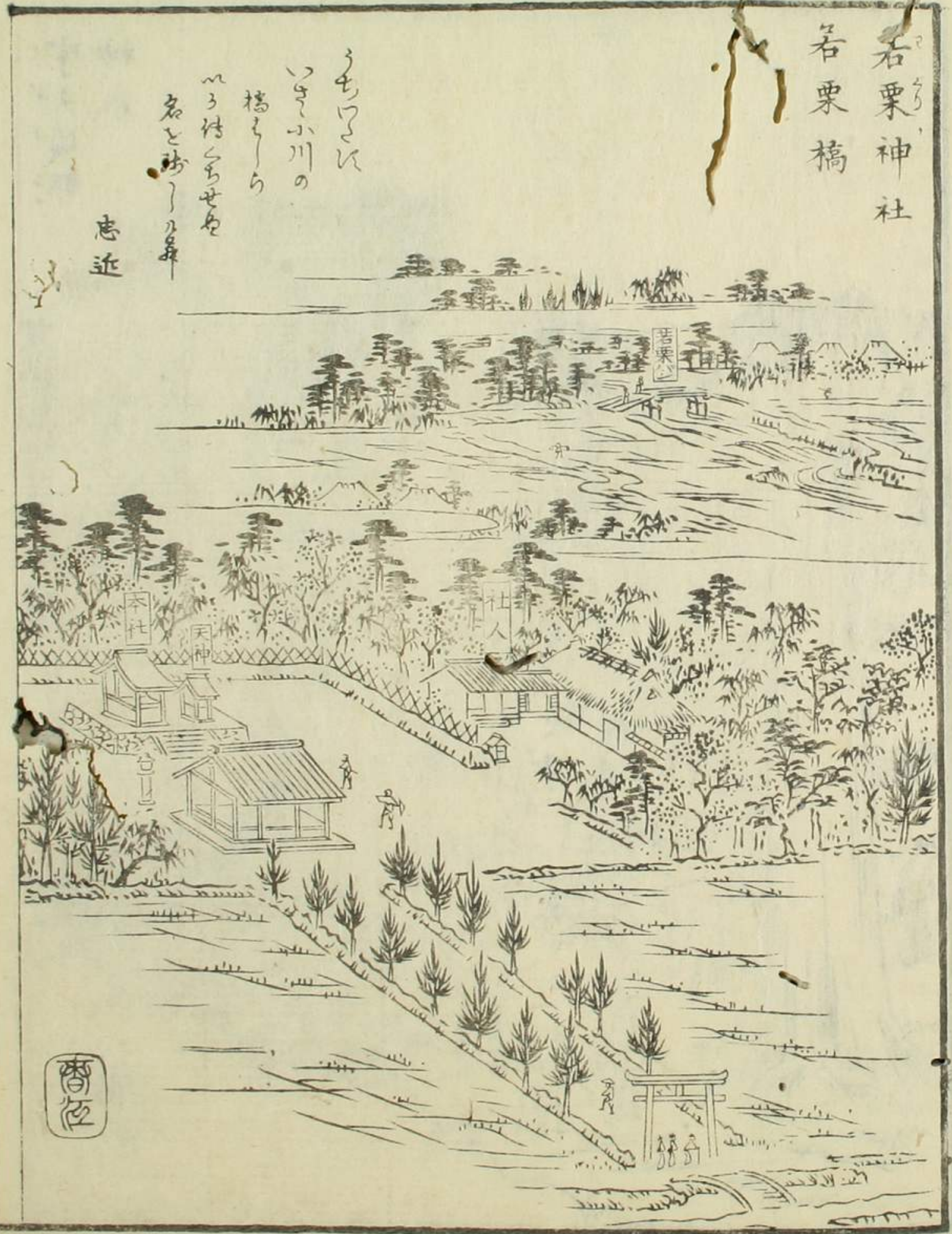
本國帳小從三位宇夫須那天神と云ふ官社あり祭神ハ
 景

行天皇の御むすえ五百城入姫皇女あり御母八坂入姫ハ尾張大

海媛の御孫と云ふ其縁りハ皇女ハ國と云ふハハ

注式に尾張

若栗神社
 若栗橋



うら川
 橋あり
 ハハ付ありせむ
 名と抄ありけり
 志近

香

